

二〇一〇年度

J₁ 国語問題

注意

- 一、試験時間は五〇分です。
- 二、「はじめ」の合図があつてからページを開くこと。
- 三、解答用紙に、受験番号・氏名を記入すること。
- 四、解答する文字はくずさず正確に書くこと。
- 五、解答用紙のみ提出し、問題用紙は必ず持ち帰ること。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、「」は語句の意味です。

ある大きな町のはずれに古い時代の小さな円形劇場の廃墟^{はいきょ}があった。近所の子供たちは遊びにきては真ん中の広場でボール投げをし、大人たちはヤギに草を食べさせにつれてきた。夜には恋人たちがあいびきの場所にしたりしていた。この円形劇場の廃墟に身形^{みなり}のみすばらしい女の子がどこからともなくやってきて棲^すみついた。舞台の下に残っている崩^{くず}れかけた小部屋の一つにである。モモというこの女の子はたちまち近所の人たちと仲よくなった。その人たちの協力^{きょうりょ}で部屋も小ぎれいに修理された。

モモがきてからというものの人々の生活は明るい活気のあるものになった。モモには不思議な力があつたからである。いつでも別にいわゆる超能力^{ちようりき}をもっていたわけではない。ただ、モモは相手の話をきくことがうまかった。モモに話をきいてもらっていると、まともない考えが浮かんでくる。モモがその大きな黒い目で、じつと見つめていると、相手は、自分のどこにそんなものがひそんでいたかと驚^{おどろ}くような考えが、すつと浮かび上がってくるのだった。モモに話をきいてもらっていると、思い迷っている人は自分の意思がはつきりし、引^ひ込み思案の人は勇気が出てくる。喧嘩^{けんか}して仲たがいし憎^{にく}しみ合っている者同士もモモに話をきいてもらっていると心がなごみ、やがて親愛の情が湧^わいてくるのである。

モモにはたくさんさんの友達^{ともだち}がいたが、とくに親しいのは道路掃除夫^{どうろそうじふ}のベッポおじさんと観光ガイドの若者のジジの二人だった。ベッポおじさんはなんでもじつくりやる変わり者であり、ジジは口からさきに生まれたような冗談好き^{じょうたんずき}の陽気な若者であつたが、それでいて二人は仲よしだった。

(A)ここに、人々の平和で幸福な生活^{しんぷく}を脅^{おびや}かす者たちがあらわれた。時間どろぼうの灰色の男たちである。彼らは音もなく人目につかず攻^せめこんできたのだった。頭^{かぶ}のてつぺんから足の先まで、そして顔も力バンもなにもかも灰色^こづくめなのである。彼らは人々の暮らしのなかにしのびこんできて、時間というかけがえのない財産^{ざさん}を人間から奪^{うば}いつくそうとした。もともと影^{かげ}のようなこの男たちは、ちょうど吸血鬼^{かきり}が人々の血を吸^すって生きているように、人間から奪^{うば}った時間を糧^{かて}「生きるため

のささえ」にして生きているのであつた。

彼らは人々を甘言^{かんげん}「うまい言葉」で釣^つって時間を節約^{せつやく}させ貯蓄^{ちちく}させるというかたちで時間を奪^{うば}うのである。彼らの畏^{おそ}れにかかった床屋^{とこ}のフージーはすべてを能率^{のうりつ}的、事務的に手早く片づけるようになった。しかし、それとともに彼はだんだん怒^{おこ}りっぽく落着^{おち}きのない人間になってきた。彼の節約した時間は彼の手に少しも残らず、一日一日は次第に短^{みじ}くなっていったからである。

同じことは町の多くの人々に起こっていた。(時間節約)が人々の間で合言葉になり、時間のかからない文明の利器^{りき}が謳歌^{おうか}「ほめたたえること」された。人々は余暇^{よか}の時間でも無駄^{むだ}なく使おうとし、やたらにせわしく遊ぶのであつた。だから、祭^{まつり}りを楽しむことも夢を見ることもできなくなった。また、そのことを思い出させる静けさに耐^たえられず、いたずらに「むだに」騒^{さわ}音を立てるのであつた。そして問題は仕事への愛情があるかないかではなく、できるだけ短時間にどれだけ多くの仕事ができるかになった。町の外見も変わってきた。旧い変化に富んだ家々がとりこわされて余分なものの一切^{いっさい}ついていない新しい家が建った。こうして人々の生活は、日ごとに画一的になり冷たくなり、貧しくなっていたのである。

しかしそれを、誰^{だれ}一人大人は認めようとしなかった。それをはつきり感じたのは子供たちだった。灰色の男たちは子供たちが、とくにそのなかでもモモがもっとも手ごわい相手であることを知っていた。そこで彼らはモモの親しい友達である観光ガイドの若者ジジと道路掃除夫^{どうろそうじふ}のベッポおじさんにねらいをつけた。子供たちから時間をとりあげてモモから引きはなしてモモを孤立^{こり}させようと試み、また全力をあげてモモを捕^{つか}まえようとした。

こうして、モモの友人たちへの灰色の男たちの魔^まの手がのびるとともに、モモへの追跡^{せき}がはじまる。ところがモモは時間の国の主の使者である不思議な亀^{かめ}のカシオペアに導かれて、安全に時間の国に逃^にげることができた。そしてこの時間の国でいつそう時間のすばらしさを見、知つてさらに活力を得たモモと灰色の男たちとのたたかいがはじまる……。

このミヒヤエル・エンデの『モモ』がたいへん興味深いのは、ここに童話のかたちで人間にとつて時間とはなにかということが実にいろいろな角度から鋭^さく立ち入って示されていることである。たとえば、時間が盗^{ぬす}まれて人々の日ごとの生活が画一的

明
大 明治(一四)

になり冷たくなり貧しくなつていったとき、そのことにいちはやく気づいたのはいわば遊ぶことが仕事である子供たちであったが、灰色の男たちの活動とともに子供たちが遊びにならない変な玩具をもつてくるようになったことが書かれている。

……子どもたちが、そんなものを使つてもほんとうの遊びはできないような、いろいろなおもちゃを持つてくるが多くなつたのです。(B)、遠隔操作で走らせることのできる戦車——でも、それ以上のことはまるで役に立ちません。(C)、細長い棒の先でぐるぐる円を回して飛ぶ宇宙ロケット——これも、そのほかのことには使えません…… とりわけこまることは、こういうものはこまかなところまでいたれりつくせりで完成されているため、子供がじぶんで空想を働かせる余地がまったくなく、ですから子どもたちはなん時間もじつとすわつたきり、ガタガタ、ギーギー、ブンブンとせわしなく、動きまわるおもちゃのとりこになつて、それでいてほんとうはたいくつして、ながめてばかりいます——けれども頭のほうはからつぽで、ちつとも働いていないのです。

昔の遊びだつたら、二つか五つの木箱とか、やぶれたテーブルかけとか、モグラが盛りあげた山とか、ひとすくいの小石とかがあれば十分で、あとは空想の力で補うことができたのである。しかも子供たちへの灰色の男たちの魔の手がさらにのびて、子供たちは灰色の男たちの手先になつた大人によつて子供の家に入れられる。そこではなにか自分で遊びを工夫することなど許されない。遊びを決めるのは監督の大人で、しかもその遊びときたら、なにか(D)ことを覚えさせるためのものばかりなのだ。

「で、これからどこに行くの?」

「遊戯の授業さ。遊び方をならうんだ」と、フランコがこたえました。

「それ、なんなの?」

「きょうやるのは、パンチ・カードごっこさ」と、パオロが説明しました。「とってもためになるんだよ、でもものすごく注意力がいるのさ。」

……………

④「そんなことがおもしろいの?」とモモは、いぶかしそうにききました。

⑤「そんなことは問題じゃないのよ」とマリアがおどして言いました……

「じゃ、なにがいったい問題なの?」

「将来の(D)ごっこさ」とバラオがこたえました。

すべてのものの価値が役に立つこと能率的なこと自動的なことに還元されるとき、玩具も玩具でなくなり遊びも遊びでなくなる——この私たちのまわりで今日頻繁に見られるようになった事柄が、端的に「はつきり」とその原型を示す童話的な考え方や表現によつて鮮やかに示されている。そして、そのような事態が生ずるようになったのも、時間とは生活であり時間を節約すればするほど人間の生活はやせ細つてなくなつてしまふからであつた。時間の国の主のマイスター・ホラはモモに時間のことをこんなふうにもいつている。「時計というのはね、人間ひとりひとりの胸の中にあるものを、きわめて不完全ながらもまねて型どつたものなのだ。光を見るためには目があり、音を聞くためには耳があるのとおなじに、人間には時間を感じとるために心というものがある」と。

私たち人間一人一人の胸のなかにあり、生活そのものであるような時間は、どこでもいつでも斉一【同じ】に流れているのではない。物理的には同じ長さである時間が同じ一人の人にとって楽しいとき嬉しいときには短く、辛いとき悲しいときには長く感じられるということから、物理的な時間とは別にこれと対照的に心理的な時間というものが考えられるようになった。

しかし人間的な時間とは、このように単に心理的なものに尽きるのであろうか。たとえば日曜日や祭日、とくに今日の私たちの社会でいえば正月の三が日などについてふりかえつてみればわかるように、そういうときに流れているのは平日の時間で

明治(1回)

はない。一般に、循環とリズムを感じさせながらゆっくりと流れる時間がそこにある。もつとこまかく見れば、同じ平日でもビジネス街を流れている時間と団地を流れている時間は同じではないし、放送局のスタジオのなかを流れている時間と動物園のなかを流れている時間は同じではない。前者に流れているのは厳密さを要求される抽象化された時間であり、後者に流れているのはそれよりはだまかで生活的、生命的な時間である。

真の時間とは、単に心のなかにある心理的なものではなくて、質をもった空間のなかで人々が共有するものなのではなからうか。時間は、物理的時間でも心理的時間でもあるまえに、質をもった空間のなかで人々によって共有されるものではなからうか。

時間の能率化、つまり経済的な画一化は、私たちの生活にも一義的な価値を押しつけるようになった。人間生活の極端な計量化、計数化であり、デジタル化である。時間の能率化、節約は経済的な価値を生むので、そこから逆に時間が金銭によって計られ、買われる「買い求められる」。

「E」という諺は、時間は大切なものであり空しく費やしてはならないという意味のものが、考えてみればこの教訓的な諺のなかにも時間の能率化の考えが潜んでいたわけである。先のエンデ流に言えば、灰色の男たちの支配が及んでいたわけである。そして人間生活のデジタル化ということをいえば、今日のようにデジタル型の精密な腕時計が実用化され大量に出まわるはるかまえに、近代文明とともにすでに人間生活のデジタル化ははじまっていたのである。デジタル型腕時計の本格的出現はそういう人間生活のデジタル化のあとを追ったものであり、生活のデジタル化が徹底したことの結果を示すものであるともいえるのだ。

人間生活のデジタル化の赴く「むかう」ところ、アナログ的なもの、アナロジー(類比)的なものにみちていた私たちの生活、私たちの世界は、曖昧で非能率的なものとしてしりぞけられた。多義的で総合的なアナログ的世界から、一義的で分析的なデジタルの世界に変えられてきたのである。

アナログ的な世界にあつて中心的な役割を果たすのは、なによりも想像力であり、全体的な直観である。いろいろな事物の

間にひそんでいるアナロジー(類比関係)を捉えるのはそれらの働きだからだ。その想像力や全体的直観から創意や工夫も出てくる。そして世界のデジタル化とともに、つまり時間の能率化とともに、子供たちの玩具までが複雑な機械仕掛けになり、自動的なものになった。玩具として高度化しているようにみえても夢を与えず、むしろ夢を奪っている。

このような趨勢「なりゆき」のもとでは子供たちからすべての遊びが奪われ、すべてが時間の能率化の線で役に立つために学習されることになりかねない。いやすでに現在のわが国の学習体系は、その要「最も大切な部分」をなすものになっている入学生試験が示すように、〇×、穴埋め、択一、暗記などのきわめてデジタル型の知識を身につけることが中心になっているのである。マーク・シート方式とデジタル・コンピュータによる入学生試験の大規模な機械化に至る軌道「道筋」はすでに敷かれていたのである。

ものを一義的にしか見ることでなくなった人間の話として、こういうのがある。ある男がお土産にたくさんの鉛筆をもらって家に帰る途中、山中の石切場で道に迷った。真冬のこととて、洞穴のなかで焚火をして一夜を過ごそうと考えたが、あいにく近所には薪になるような枯枝の一本もない。彼はオーバーにくるまったまま凍死してしまった。お土産としてもらったたくさん鉛筆を薪のかわりに燃やすことは考えつかなかった。鉛筆は書くものであつて燃やすものではないから、というわけである。これは作り噺であるけれども、ただ笑い話としてすませることができるだろうか。

(中村雄二郎の文章より・一部改変)

問一 (A) (C) に入るつなぎことばを次の1～4から選び、番号で答えなさい。

1 あるいは 2 ところが 3 たとえば 4 だから

問二 — 部①「それ」、②「そのこと」はそれぞれ何を指していますか、答えなさい。

問三 — 部③「灰色の男たちの魔の手」とは、具体的にどのようなことですか、答えなさい。

問四 (D) に入ることを文中から探し、四字で答えなさい。また、「E」に入る適切なことわざを答えなさい。

明大明治(一回)

- 問五 — 部④「そんなこと」、⑤「そんなこと」はそれぞれ何を指していますか、答えなさい。
- 問六 — 部⑥「人間の生活はやせ細ってなくなってしまう」とは、どういうことですか、答えなさい。
- 問七 — 部⑦「後者」とは、具体的に何を指しますか、答えなさい。
- 問八 — 部⑧「玩具として高度化しているようにみえても夢を与えず、むしろ夢を奪っている」とありますが、そう言ったのはなぜですか、その理由を答えなさい。
- 問九 — 部⑨「鉛筆は書くものであって燃やすものではない」とありますが、それはどのようなものにとらえ方に基づくものですか、答えなさい。
- 問十 「モモ」の話を踏まえて、この文章の筆者の主張を、次の四つの言葉を用いて、五十字以内でまとめなさい。
- 【能率化・想像力・直観・工夫】

二

次の1〜20のことわざや慣用句の中の ()に入る生物名をア〜ナから選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

- 1 () をかぶる。 2 () () の一声。 3 () () の甲より年の功。 4 () () の耳に念仏。
- 5 月と () 。 6 泣きつ面に () 。 7 能ある () () は爪をかくす。
- 8 やぶをつついて () () を出す。 9 () () 寝入り。 10 () () につままれる。
- 11 () () のはいでるすぎ間もない。 12 () () で鯛を釣る。 13 () () の涙。
- 14 () () に豆鉄砲。
- 15 () () の子は () () 。 16 () () の行水。 17 () () も鳴かずばうたれまい。
- 18 () () も木から落ちる。 19 () () に真珠。 20 () () の子をちらす。

〈生物名〉

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|----|---|-----|---|----|---|------|---|-----|---|-----|
| ア | あり | イ | くも | ウ | いぬ | エ | ねこ | オ | さる | カ | たぬき | キ | きつね |
| ク | ぶた | ケ | うま | コ | たか | サ | つる | シ | きじ | ス | からす | セ | はと |
| ソ | すずめ | タ | はち | チ | かえる | ツ | かめ | テ | すっぽん | ト | へび | ナ | えび |

三

次の文中の(カタカナ)を漢字で書きなさい。

- 1 新記録を(ジュリツ)する。 2 日本列島を(ジユウダン)する。
- 3 (センレン)された文章。 4 運賃を(セイサン)する。
- 5 (シュシヤ)選択する。 6 ようやく(キキ)をのがれた。
- 7 専門家の(コウギ)をきく。 8 室内を(アタタ)める。
- 9 長い髪を(タバ)ねる。 10 (ココロヨ)い風が吹く。

10

J1 国語解答用紙

受験番号 氏名 (

一

問一

A
B
C

問二

②

問三

--

問四

D
E

問五

⑤

④

得点

問六

--

問七

--

問八

--

問九

--

問十

二

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

三

1
2
3
4
5

6
7
8
める
9
ねる
10
い